



# ネイチャーセンターだより

2017年9.10月号

## いきもの図鑑



### ナナカマド (バラ科)

漢字名：七竈

自然学習林や市内の街路樹などで見られる身近な木。9月下旬から徐々に葉は赤く色づき、実も赤く熟す。実はヒヨドリやカワラヒワ、冬に渡って来るキレンジャクなど小鳥たちの好物。自然学習林では、ほかにもイタヤカエデやハリギリが赤や黄色に色づく。美しい紅葉の条件は①日当たりがよいこと②きれいな空気③8度以下の冷氣。特に急げきな冷え込み④適度な湿度など。この条件がそろえばきれいな紅葉が期待できる。10月下旬の秋晴れの日に見に行くのがおすすめ。(9月末撮影)

### 【春国岱】

9月下旬頃から10月中旬頃まで、「サンゴ草」とも呼ばれるアッケシソウの紅葉(草もみじ)が、木道沿いで見られるます。ウラギクやナガボノシロワレモコウなど秋の花が開花すると、今シーズンの花は出そろいます。10月上旬からオオハクチョウやヒドリガモ・オナガガモが渡って来て、時にはカモ類の大群で湖が埋めつくされるほどです。

## 9、10月の見どころ



ツタウルシの紅葉



ミヤマカケス

### 【自然学習林】

エゾトリカブトやハンゴンソウ、ミミコウモリなど晩夏から秋の花が開花します。イタヤカエデやツタウルシなどの紅葉が美しい季節です。ヤマブドウの実を食べにヒヨドリが来たり、ドングリの実を探すミヤマカケスなど、夏までは見られなかった鳥たちがやって来ます。



ヒドリガモの群れ



ウラギク

秋分の日 (9/23) の日の入り 5:06  
日の出 17:14



木道沿いの塩性湿地では、アッケシソウが紅葉しています

夕ぐれ時、オスのエゾシカの鳴き声が響きわたります。

通行止めになっている森コースの木道の補修作業が、始まります。来年の春には通行できる予定です

夏の代名詞だったアオサギの群れに代わって、ヒドリガモなどのカモの群れが渡ってきます

カケスやヒヨドリなどが木の実を食べにやって来ます

- 観察路 (ハマナスコース1.4km、約30分)
- 観察路 (ヒバリコース1.2km、約25分)
- 観察路 (キタキツネコース0.8km、約20分)
- ⊗ 通行止め

- 観察路 (小鳥の小道1.4km、約30分)
- 作業路 (車両進入禁止)
- 根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター (入館無料)
- 東梅野鳥観察舎 (東梅ハイド)

## トピックス

### シギ・チドリ調査続報

7月下旬から8月にかけて、風蓮湖一円でシギ・チドリ類のカウントを3回行いました。

観察地点から鳥のいる場所までの距離が離れている地点が大半で、細かい識別が困難な場合が多かったのですが、下記のような種類が記録されました。

(チドリ科) ムナグロ、ダイゼン、シロチドリ、メダイチドリ  
(ミヤコドリ科) ミヤコドリ

(シギ科) アオアシシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、トウネン、ハマシギ、エリマキシギ

この中で特に数の多かったのは、キアシシギ、トウネン、メダイチドリ、アオアシシギでした。

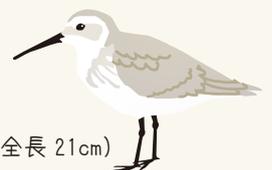
ミヤコドリは8/3、4に春国岱で7羽の群を観察していたのですが、このカウントでは走古丹の先の中州で8/9に5羽、8/23に7羽を確認しました。同じ群なのかもしれません。



キアシシギ (全長 25cm)



キョウジョシギ (全長 22cm)



ハマシギ (全長 21cm)

## ヒグマにあっても落ち着いて行動しよう

8月にヒグマの目撃情報もくげきじょうほうが、国道44号線の周辺あいつで相次ぎました。風蓮湖ふうれんこや根室半島には、数頭のヒグマが生息せいそくしています。私たちしよかも初夏にある調査地点さうさで、ヒグマと遭遇さいわしました。幸いヒグマは私たちに気づいていなかったので何事も起きませんでした。出会った後もひどく緊張きんちようしてしまいました。

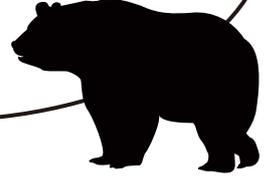


### まずヒグマにあわないために



- ひんぱんにヒグマの目撃情報もくげきじょうほうがある場所には、一人で歩いて行かない。
- 森に入るときは、車のクラクションなど音を出してヒグマに自分の存在を知らせる。私たちは「ほいほーい」や「森に入るよ～」など、ヒグマを威嚇いかくせず、穏やかに話しかけるように声を出します。

ここに挙げたヒグマの対応は、とても基本的なことです。森へ入る時は、今一度確認するようにしましょう



### ヒグマにあってしまった時は



- ヒグマの存在そんざいに気がついたときは、あわてず速やかにその場を離はなれます。その時、絶対に走らないようにしましょう。
- ヒグマは本能ほんのうで背中を見ると追いたくなるので、後ろ向きに歩きます。

北海道庁発行「あなたとヒグマの共存のために」のパンフレットを参考にしました

## 春国岱クイズ

秋と春に風蓮湖に渡ってくるシギ・チドリふうれんこのなかまの中でも、いちばん体が小さい「トウネン」。スズメとほぼ同じくらいの大きさで、波打ちぎわをちょこまかと走りながら、砂や泥どろの表面をつついて小さな虫などを食べています。

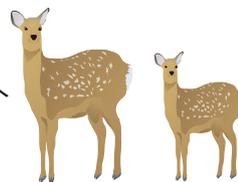
さてこの「トウネン」という名前は、どんな由来があるのでしょうか？



- ① 江戸時代のあるお寺の小僧さんの名前「頭念」からとった。
- ② 体が小さいので、「当年子（その年に生まれた子）」からとった。
- ③ 関西弁のつっこみのセリフ、「何しとうねん」からとった。

# イベント情報！

観察会などへの参加申込み、お問い合わせは春国岱ネイチャーセンターへ  
電話（0153-25-3047）もしくは直接のご連絡をお願いいたします。



<p><b>9/24（日）</b> <b>13時半～15時</b> <b>※申込み不要</b></p>	<p>「春国岱の今昔 ハマナス群落に鳥たちは戻って来るのか？」 春国岱ハマナス群落保全プロジェクトの中間報告 講師：外山雅大さん（根室市歴史と自然の資料館） 高田令子さん（ニムオロ自然研究会）</p>	<p>対象：中学生～大人 定員：40名※申込み不要 持ち物：筆記用具</p>
<p><b>9/26（火）</b> <b>10時～12時</b></p>	<p>「春国岱 ボランティアの活動をゆるふわ体験」 自然学習林の木の名札づくりとネイチャーゲームを ボランティアサークル「スंक」のメンバーとともに 体験します</p>	<p>対象：高校生～大人 定員：10名 申込み要 持ち物：外で活動できる服装 帽子・長靴・筆記用具</p>
<p><b>今後の予定</b> <b>10/15（日）</b> <b>9時～14時半</b></p>	<p>「バスツアー・風蓮湖岸野鳥保護区内の湿原を歩く」 ※雨天時10/22 普段は入ることができない酪陽の湿原をご案内します。バスは市役所前発着 です。ふるってご参加ください。募集は行事の約ひと月前から開始。</p>	

**募集中！** ボランティア「スंक」

春国岱ネイチャーセンターでは、ボランティアスタッフを募集中です。春国岱や風蓮湖、ネイチャーセンター周辺の森の自然を自らが楽しみ、環境保全について学び守ることを目的としています。月末に1回ミーティングを行い、自然学習林の樹名板を作ったり、イベントを企画しています。熱いながらもゆるい楽しい集まりです。ご興味のあるかたはご連絡ください。

◆対象：高校生以上  
◆年会費（保険料）：300円



フィールドマナーを守って

自然や生きものが安心して暮らせるように…

- 観察路から外れないようにしてください
- 動植物の採取や捕獲はしないでください
- ゴミはお持ち帰りください
- 所定の場所での喫煙にご協力ください
- 春国岱入り口駐車場から奥は、一般車両の乗り入れは禁止されています
- キタキツネやエゾシカ、野鳥など野生動物の生息地です。ペットを持ち込んだり、放したりすることはご遠慮ください

根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター（入館無料）

〒086-0074 北海道根室市東梅103番地

TEL. 0153-25-3047 FAX. 0153-25-8570

Eメール. nemu\_nc@marimo.or.jp

URL. [http://www.marimo.or.jp/~nemu\\_nc/workn/index.html](http://www.marimo.or.jp/~nemu_nc/workn/index.html)

◆9月休館日：6・13・19・20・25・27日

◆10月休館日：4・10・11・18・25日

開館時間：9：00～17：00 **10月～3月は16：30閉館**

◆団体でご利用の方へ（要事前申込）

自然観察や学習、スライドの上映などのプログラムをご利用いただけます。

クイズのこたえ 答え ②江戸時代には「とうねご（当年子）」とか、「とうねごしぎ」とか呼ばれていたそうです。今年生まれたからまだ小さいのだ、と思われていたのですね。  
出典：大橋弘一. 2003. 『鳥の名前』東京書籍.



ラムサール条約湿地

風蓮湖・春国岱

2005年11月 登録